

令和6年度 事務事業評価シート（1）

[令和5年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	こころの健康づくり推進事業			事業番号	011-206
担当部署名	健康福祉	局	健康	部	精神保健課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(5) 障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現
		寄与するKPI	有	取組の方向性	①相談支援体制の充実・強化		
		無	指標名	—			
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	—	目標値	—
		寄与するKPI	無	取組	—		
		有・無	指標名	—			
無	現状値	—	目標値	—			

2	関連計画				
3	事業開始年度	昭和 49 年度	点検対象年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律			

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁、こころの健康センター、各区			
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	こころの健康に悩みを持つ市民及びその家族等	対象数	単位	
			—	—	
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	精神疾患やその治療についての相談指導に応じ、市民のこころの健康保持・増進や精神疾患に関する相談等を実施することでメンタルヘルスの維持向上を図る。また、精神障害者の社会復帰・社会参加の促進を目的とする。			
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターにおいて精神保健福祉士や保健師が相談に応じ、必要に応じて関係機関の紹介や連絡調整を行う。相談内容・・・こころの健康やアルコール問題等に関する医療の受診や社会復帰等について。 ・精神科医師による定例の精神保健福祉相談を実施（予約制）。 			
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など				
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)				
10	公民連携・協働事業				

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標 点検対象年度
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	精神科医療に関する相談延件数	件	目標値	—	—	—	—
			実績値	9,156	9,542		
			達成率	—	—		
	当該指標を選定した理由	こころの健康維持、社会復帰のためには、適切な医療につながる事が重要であるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	市民等からの相談対応延件数のうち精神科医療に関する相談延件数であり、目標の設定にはなじまない。					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標	
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	精神保健福祉相談延件数	件	目標値	—	—	—	
			実績値	24,280	27,399		
			達成率	—	—		
	当該指標を選定した理由	あらゆるこころの健康に関する相談に対応し、必要に応じて適切な支援につなげることができる機会となるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	市民等からのこころの健康に関する相談対応延件数であり、目標の設定にはなじまない。					

令和6年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	こころの健康づくり推進事業	事業番号	011-206
-------	---------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度		令和6年度	
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算	
事業費 (a)	14,560	17,188	17,979	12,357	18,790	
13 財源内訳	国支出金		0		0	
	府支出金		0		0	
	市債		0		0	
	その他 ()		0		0	
	受益者負担金(使用料、手数料等)			0		0
	一般財源	14,560	17,188	17,979	12,357	18,790
14 人件費 (b)	133,250	138,744	138,825	138,825	138,362	
15 年間経費(c)=(a)+(b)	147,810	155,932	156,804	151,182	157,152	

事業費の内訳

（単位：千円）

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度	事業費	うち一般財源	
								R5 決算
16 事業費内訳	医師報酬	R5 決算	5,376	5,376	消耗品費	R5 決算	510	510
		R6 予算	7,560	7,560		R6 予算	565	565
	会計年度任用職員報酬	R5 決算	4,556	4,556	印刷製本費	R5 決算	34	34
		R6 予算	6,822	6,822		R6 予算	60	60
	期末勤勉手当（会計年度任用職員）	R5 決算	748	748	精神障害者地域交流運動会負担金	R5 決算	82	82
		R6 予算	2,221	2,221		R6 予算	216	216
	謝礼金	R5 決算	238	238	精神保健福祉セミナー開催負担金	R5 決算	138	138
		R6 予算	277	277		R6 予算	138	138
	費用弁償（通勤費）	R5 決算	480	480	その他	R5 決算	195	195
		R6 予算	598	598		R6 予算	333	333

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和4年度	令和5年度
		24,280	27,399
① 精神保健福祉相談員による相談対応	件		
② 上記①にかかる年間経費	千円	131,200	131,200
③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	5,404	4,789
備考（算出についての説明等）		精神保健福祉相談員による相談件数に対する人件費を計上	

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18 各区の保健センターにおいて、こころの健康に関する相談等を受けており、精神保健福祉士や保健師が医療の受診や社会復帰、アルコール関連問題等に関する相談に個別に応じ、必要に応じて関係機関の紹介や連絡調整を行っている。令和5年度の相談延件数は27,399件であり昨年度より増加しているが、対応が複数回に及ぶ精神科医療に関する相談については全体の約3割強を占めている。専門職である精神保健福祉士や保健師が相談を受けて対応し、また精神科医師による相談を活用することで、未治療者や治療中断者に対するアプローチなど、専門性の高い医療相談対応を行っており、有効性は高いと考える。

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19 ストレスの多い現代社会において、思春期の不登校、摂食障害、壮年期のうつ病、職場不適応、アルコール依存症、老年期の認知症など、こころの健康はすべての年代で深刻な問題となっている。また、昨今の地震や豪雨などの自然災害による被害、新型コロナウイルス感染症による外出抑制など、不安やストレスを抱えての生活が長期化することにより、心の不調をきたす場合があり、心のケアの必要性が高まっている。本市では、長年、精神保健福祉士を常勤職員として配置してきた。その中で、知識や経験が積み重ねられており、多岐にわたる相談内容に対して、精神科医師や保健師と共に多角的な見地から有効な支援を実施している。また、家庭訪問や受診同伴等のアウトリーチ支援や危機介入を積極的な支援を行うことで、必要な医療につなぎ、精神障害者の社会復帰を促進している。加えて精神科医療は対象範囲を広げており、その中で公的機関には医療分野、福祉分野共に処遇困難事例への関わりが望まれ、当該事業を担当する職員に求められる水準は高くなっている。これに対し、専門機関であるこころの健康センターは個別事例への技術支援や研修を実施し、職員の技術的水準の向上を図っている。以上のことから、堺市基本計画2025の取組の方向性「相談支援体制の充実・強化」に寄与している。